

# 商工会議所L O B O（早期景気観測）

—平成12年11月調査結果—

（平成12年12月4日）

○調査期間：平成12年11月20日～27日

○調査対象：全国の394商工会議所が2660業種組合等にヒアリング  
（内訳）建設業 392 製造業 646 卸売業 245  
小売業 763 サービス業 614

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（DI値を集計）  
及び、業界として当面する問題等

※ DI値について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算：(好転) - (悪化)      売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL:03-3283-7844/7836  
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成12年11月調査結果のポイント】

業況D1のマイナス幅は2ヵ月連続して拡大。停滞感続く

- 11月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業、製造業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲37.3）よりマイナス幅が1.5ポイント拡大して▲38.8となった。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は、概ね横ばい傾向で推移しているが、最近2ヵ月は連続してマイナス幅拡大となるなど、中小企業の景況に停滞感が続いている。改善の兆しも一部見受けられるものの、地域経済や足元の景況感は、依然として厳しい状況にある。なお、マイナス水準での推移は平成3年4月から116ヵ月、また平成3年9月から111ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。

建設業では、「IT関連が好調」（電気通信工事）等との声も一部あるが、「仕事量が多少増加しても、受注単価はより一層厳しくなっているため、採算はほとんどない状況が続いている」（一般工事）、「公共工事、民間工事とも発注が非常に少ない」（一般工事）、「年末にかけてますます住宅着工件数は落ち込んでいる」（建築工事）といった厳しい状況が指摘されている。製造業では、IT関連等において仕事量の増加が一部見られるものの、「少ロット、短納期、低単価の受注が多く、忙しい割に利益は上がっていない」（一般産業用機械）、「業界全般は、昨年以上に冷え込んでいる傾向」（印刷業）、「発注元からの『単価切り下げ』の要請は相変わらず厳しい」（金属加工機械）といった厳しい指摘も寄せられている。また、好調なIT関連についても「IT関連の受注が鈍くなりはじめている。モノ余りの時代からか、受注の底が浅い」（電子部品製造）といった声も寄せられている。卸売業では、「温暖のため冬物衣料の売上が低調」（衣服・日用品）、「消費の低迷に加え、価格低下の影響で、売上の伸び悩みが続いている」（食料・飲料）、「小売店の転廃業による店舗数の激減に加え、大型店・コンビニエンスストア等の競争激化により厳しい状態が続いている」（総合卸）など厳しい業況を訴える声が多く寄せられた。小売業では、「客数の増加により売上増」（百貨店）、「不況もこの辺で底をついたのではないか」（商店街）など声が寄せられる一方、「大手の衣料品販売の低価格路線導入によって、同路線を追従せざるをえないので、品数が売れても利益にならない」（百貨店）、「消費者は郊外的大型店に流れ、中心街での買い物客が激減しており、商店街は苦戦を強いられている」（商店街）などの厳しい指摘も多く寄せられている。サービス業では、「不景気と公務員の宴会離れで飲食店街は最悪の状況」（食堂・レストラン）、「ディスカウント利用が突出。客の流れが心配」（理容）、「忘年会等、団体予約が減っている。また、客単価も下がっている」（旅館）といった声がある一方、「IT関連業種を中心に派遣需要が伸びている」（人材派遣）、「月後半より多少明るい兆しが見えてきた」（旅館）、「金融業界の再編から引合いが多い」（ソフトウェア）といった指摘も寄せられている。

売上面では、建設業・製造業・小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上D1はマイナス幅が1.3ポイント拡大して▲34.9となった。採算面では、建設業・卸売業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算D1はマイナス幅が0.6ポイント縮小して▲37.3となった。

- 向こう3ヵ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D1（今月比ベース）が▲32.8と、昨年同時期の先行き見通し（▲30.0）に比べて厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、補正予算による公共工事の早期執行や

年末年始に向けての消費動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

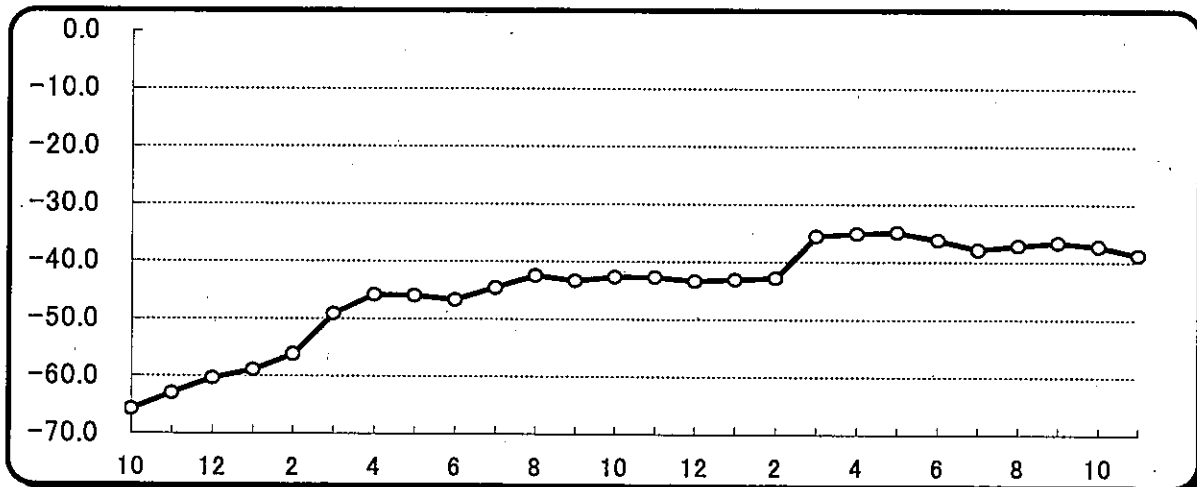
- 全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業、製造業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲37.3）よりマイナス幅が1.5ポイント拡大して▲38.8となった。今年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は、概ね横ばい傾向で推移しているが、最近2ヵ月は連続してマイナス幅拡大となるなど、中小企業の景況に停滞感が続いている。改善の兆しも一部見受けられるものの、地域経済や足元の景況感は、依然として厳しい状況にある。
- 向こう3ヵ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲32.8と、昨年同時期の先行き見通し（▲30.0）に比べて厳しい見方となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	12年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲36.3	▲37.9	▲37.2	▲36.7	▲37.3	▲38.8	▲32.8 (▲30.0)
建設	▲45.1	▲46.7	▲47.6	▲50.6	▲49.6	▲50.3	▲49.0 (▲38.7)
製造	▲26.2	▲23.3	▲24.9	▲26.5	▲20.4	▲23.9	▲23.9 (▲27.3)
卸売	▲37.6	▲46.7	▲43.8	▲34.2	▲41.5	▲47.2	▲36.2 (▲27.9)
小売	▲41.1	▲45.8	▲44.2	▲45.5	▲46.9	▲46.9	▲37.4 (▲33.9)
サービス	▲35.1	▲34.2	▲31.8	▲28.5	▲34.2	▲33.7	▲24.3 (▲22.9)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内は昨年11月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



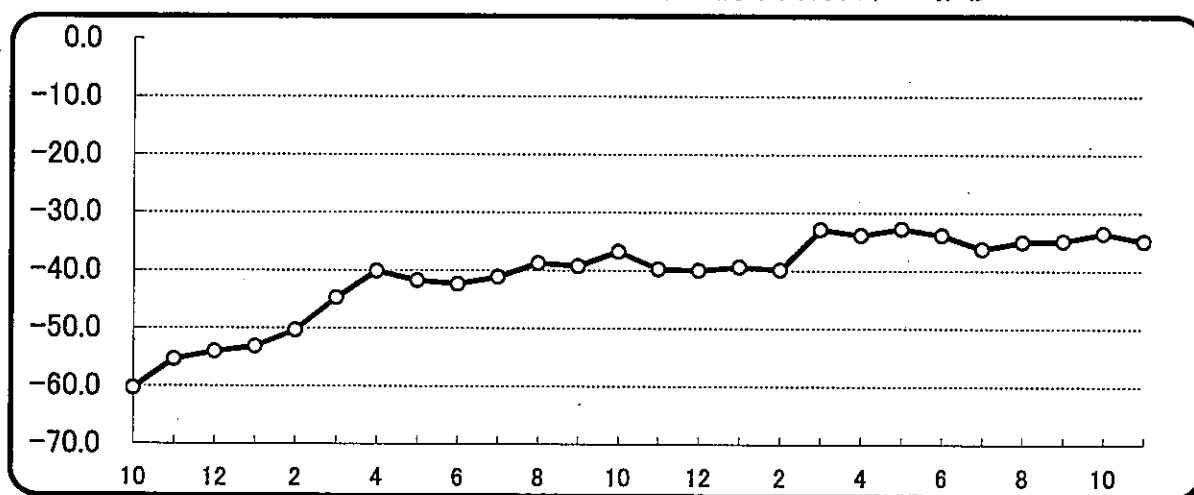
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、建設業・小売業・製造業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上D Iはマイナス幅が1.3ポイント拡大して▲34.9となった。
- 向こう3ヵ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲26.2と、昨年同時期の先行き見通し（▲25.3）に比べて厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	12年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲ 33.9	▲ 36.3	▲ 35.1	▲ 34.9	▲ 33.6	▲ 34.9	▲ 26.2 (▲ 25.3)
建設	▲ 38.9	▲ 39.6	▲ 42.1	▲ 48.2	▲ 44.2	▲ 48.5	▲ 43.6 (▲ 37.6)
製造	▲ 18.5	▲ 19.3	▲ 18.9	▲ 18.1	▲ 11.9	▲ 13.8	▲ 16.6 (▲ 22.5)
卸売	▲ 32.9	▲ 48.5	▲ 41.0	▲ 36.0	▲ 46.3	▲ 42.3	▲ 28.2 (▲ 16.9)
小売	▲ 45.1	▲ 45.9	▲ 48.2	▲ 47.1	▲ 43.9	▲ 46.6	▲ 30.9 (▲ 28.3)
サービス	▲ 33.8	▲ 35.7	▲ 29.3	▲ 28.5	▲ 32.4	▲ 31.2	▲ 17.6 (▲ 19.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



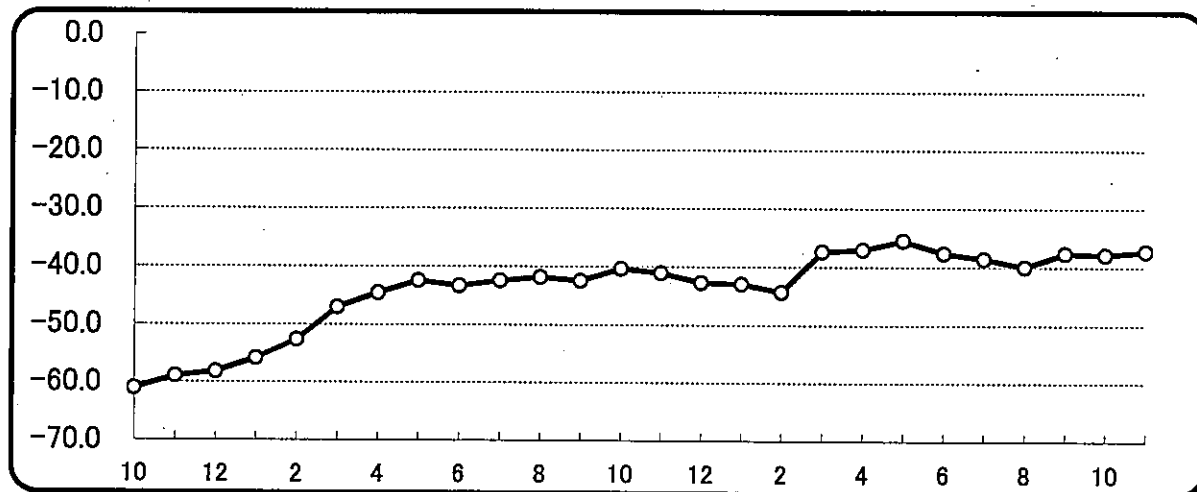
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、卸売業・建設業・サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が0.6ポイント縮小して▲37.3となった。
- 向こう3ヵ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲30.6と、昨年同時期の先行き見通し(▲30.0)に比べてやや厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	12年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲ 37.7	▲ 38.6	▲ 40.0	▲ 37.7	▲ 37.9	▲ 37.3	▲ 30.6 (▲ 30.0)
建設	▲ 50.5	▲ 46.5	▲ 52.1	▲ 54.4	▲ 55.1	▲ 51.9	▲ 45.0 (▲ 38.5)
製造	▲ 31.4	▲ 28.8	▲ 30.4	▲ 28.0	▲ 26.3	▲ 26.7	▲ 26.7 (▲ 30.3)
卸売	▲ 34.1	▲ 43.0	▲ 42.7	▲ 43.8	▲ 45.7	▲ 38.0	▲ 23.9 (▲ 27.3)
小売	▲ 39.1	▲ 42.6	▲ 45.2	▲ 40.4	▲ 39.0	▲ 41.6	▲ 33.8 (▲ 32.3)
サービス	▲ 35.5	▲ 37.0	▲ 34.5	▲ 31.5	▲ 34.7	▲ 33.2	▲ 23.3 (▲ 22.2)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	-	▲ 23.6	▲ 23.4	▲ 25.6	▲ 25.7	▲ 25.2	▲ 22.3
建設	-	▲ 30.8	▲ 32.4	▲ 37.0	▲ 32.4	▲ 32.1	▲ 31.7
製造	-	▲ 20.3	▲ 20.3	▲ 23.5	▲ 22.1	▲ 20.8	▲ 18.7
卸売	-	▲ 22.2	▲ 20.8	▲ 19.7	▲ 21.3	▲ 23.1	▲ 19.3
小売	-	▲ 21.6	▲ 22.0	▲ 25.2	▲ 26.1	▲ 27.4	▲ 22.7
サービス	-	▲ 25.2	▲ 23.2	▲ 22.8	▲ 26.6	▲ 23.5	▲ 20.6

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比DI】建設業、製造業、サービス業で悪化超感弱まる。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	12年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	▲ 0.2	1.3	0.3	▲ 0.3	0.4	▲ 0.2	▲ 3.7 (▲ 3.7)
建設	1.7	0.4	0.3	▲ 0.4	0.0	2.1	▲ 4.5 (▲ 2.6)
製造	▲ 7.6	▲ 4.9	▲ 5.2	▲ 6.6	▲ 3.6	▲ 6.0	▲ 8.9 (▲ 8.4)
卸売	11.0	7.3	7.3	9.3	12.8	4.3	6.7 (1.2)
小売	4.0	9.2	7.1	6.6	4.6	8.0	2.7 (1.0)
サービス	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 5.2	▲ 6.1	▲ 5.1	▲ 7.8	▲ 9.8 (▲ 7.2)

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】製造業、卸売業、サービス業で上昇超感強まる。

【先行き見通しDI】建設業、製造業、サービス業で、昨年同時期に比べて上昇超感が強まる見通し。

従業員DI（前年同月比）の推移

	12年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	▲ 11.9	▲ 12.0	▲ 10.1	▲ 8.6	▲ 9.1	▲ 9.5	▲ 11.4 (▲ 11.3)
建設	▲ 24.9	▲ 24.2	▲ 24.1	▲ 21.3	▲ 20.9	▲ 20.6	▲ 22.7 (▲ 20.3)
製造	▲ 12.7	▲ 9.8	▲ 7.6	▲ 6.6	▲ 9.1	▲ 10.4	▲ 12.9 (▲ 15.8)
卸売	▲ 10.4	▲ 13.9	▲ 14.6	▲ 10.6	▲ 11.6	▲ 9.2	▲ 7.6 (▲ 6.6)
小売	▲ 8.0	▲ 10.3	▲ 5.8	▲ 7.0	▲ 6.6	▲ 5.4	▲ 8.1 (▲ 9.2)
サービス	▲ 7.2	▲ 7.0	▲ 6.4	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 5.7	▲ 6.9 (▲ 5.7)

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比DI】製造業、サービス業で過剰超感強まる。

【先行き見通しDI】建設業、卸売業、サービス業で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成12年11月の景気キーワード】

○ 競争激化

建設業からは、「競争激化で利益薄い」（釧路・一般工事）、「民間工事においては低価格競争により採算が合わない状況」（樫原・一般工事）、「過当競争による採算の悪化」（弘前・電気工事）、「大手メーカーとの競合で厳しい」（各務原・建築工事）といった声が寄せられている。また、製造業からは、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産および販売が低迷している」（燕・金物類）、「外材が大量に輸入され価格が下がり、国産材が圧迫され厳しい状況」（帯広・製材、木製品）などの海外製品との競争激化についての指摘や、「大型店の進出にともない、小規模店が苦戦を強いられている」（江別・パン、菓子製造）など、大手メーカーとの競合についての指摘が多く寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「海外生産の増加により、生産・売上高が低迷しており、採算割れの状態」（樫原・衣服、日用品卸）、「小売店の転廃業による店舗数の激減に加え、大型店、コンビニエンスストア等の競争激化により厳しい状態が続いている」（浜田・総合卸）、「新店の開店ラッシュの中で今月も厳しい状況が続いている」（小牧・各種商品小売）、「大手衣料品店の低価格販売の影響もあり、衣料品販売は厳しい」（伊那・百貨店）、「消費者は郊外の大型店へ流れ、中心街での買い物客が激減しており、商店街は苦戦を強いられている」（姫路・商店街）、「客がファミリーレストラン等に流れている」（福島・酒場、ビアホール）、「団体客の会議、会合、結婚式等の競争激化で厳しい経営環境にある」（樫原・旅館）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声が寄せられている。

○ 消費単価の低下

引き続き、消費単価の低下による売上減を訴える声が多く寄せられている。「消費の低迷に加え、価格低下の影響で、売上の伸び悩みが続いている」（札幌・食料飲料卸）、「冬物の商品単価が前年同期より20%程度下がっている」（浜松・衣服日用品卸）、「顧客がいっそう単価に敏感になってきた」（二本松・各種商品小売）、「衣料品・雑貨品の客単価が下がっている」（倉敷・百貨店）、「消費低迷が続き、販売価格の低下を余儀無くされ、収益の悪化をさらに進めている」（長岡・商店街）、「忘年会等、団体予約が減っている。また、客単価も下がっている」（瑞浪・旅館）といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年 9月	競争激化	消費単価の低下	残暑の影響
10月	競争激化	消費単価の低下	原油価格高騰
11月	競争激化	消費単価の低下	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。



(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D1は2ヵ月ぶりに前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、採算D1は4ヵ月ぶりにマイナス幅が縮小している。「IT関連が好調」(電気通信工事)等との声も一部あるが、「仕事量が多少増加しても、受注単価はより一層厳しくなっているため、採算はほとんどない状況が続いている」(一般工事)、「公共工事、民間工事とも発注が非常に少ない」(一般工事)、「年末にかけてますます住宅着工件数は落ち込んでいる」(建築工事)といった厳しい状況が指摘されている。
製 造	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。IT関連等において仕事量の増加が一部見られるものの、「少ロット、短納期、低単価の受注が多く、忙しい割に利益は上がっていない」(一般産業用機械)、「業界全般は、昨年以上に冷え込んでいる傾向」(印刷業)、「発注元からの『単価切り下げ』の要請は相変わらず厳しい」(金属加工機械)といった厳しい指摘も寄せられている。また、好調なIT関連についても「IT関連の受注が鈍くなりはじめている。モノ余りの時代からか、受注の底が浅い」(電子部品製造)といった声も寄せられている。
卸 売	業況D1は2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、売上D1は2ヵ月ぶり、また採算D1は3ヵ月ぶりにマイナス幅が縮小している。「温暖のため冬物衣料の売上が低調」(衣服・日用品)、「消費の低迷に加え、価格低下の影響で、売上の伸び悩みが続いている」(食料・飲料)、「小売店の転廃業による店舗数の激減に加え、大型店・コンビニエンスストア等の競争激化により厳しい状態が続いている」(総合卸)など厳しい業況を訴える声が多く寄せられた。
小 売	業況D1は前月と同水準となる一方、売上・採算D1は3ヵ月ぶりにマイナス幅が拡大している。「客数の増加により売上増」(百貨店)、「不況もこの辺で底をついたのではないか」(商店街)など声が寄せられる一方、「大手の衣料品販売の低価格路線導入によって、同路線を追随せざるをえないので、品数が売れても利益にならない」(百貨店)、「消費者は郊外の大型店に流れ、中心街での買い物客が激減しており、商店街は苦戦を強いられている」(商店街)などの厳しい指摘も多く寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D1とも2ヵ月ぶりに前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「不景気と公務員の宴会離れで飲食店街は最悪の状況」(食堂・レストラン)、「ディスカウント利用が出店。客の流れが心配」(理容)、「忘年会等、団体予約が減っている。また、客単価も下がっている」(旅館)といった声がある一方、「IT関連業種を中心に派遣需要が伸びている」(人材派遣)、「月後半より多少明るい兆しが見えてきた」(旅館)、「金融業界の再編から引合いが多い」(ソフトウェア)といった指摘も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

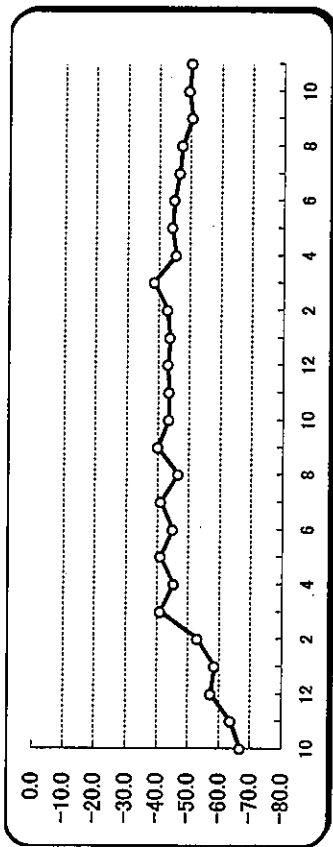
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、東北、関東、四国の各ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が縮小し、他のブロックで拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（12月～2月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。関東、東海を除く全ブロックで、昨年同時期の先行き見通しに比べて厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

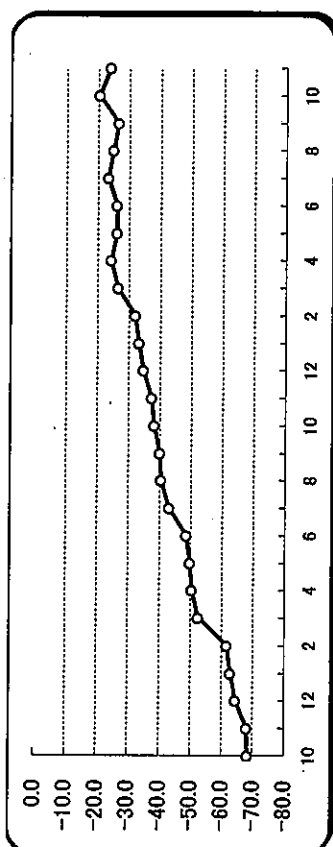
	12年 6月	- 7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月
全 国	▲ 36.3	▲ 37.9	▲ 37.2	▲ 36.7	▲ 37.3	▲ 38.8	▲ 32.8 (▲ 30.0)
北海道	▲ 44.4	▲ 40.0	▲ 38.5	▲ 29.1	▲ 33.1	▲ 35.3	▲ 32.5 (▲ 28.8)
東 北	▲ 34.8	▲ 34.4	▲ 33.6	▲ 32.3	▲ 35.8	▲ 35.0	▲ 32.5 (▲ 29.1)
北陸信越	▲ 28.0	▲ 30.4	▲ 29.2	▲ 38.9	▲ 34.8	▲ 39.7	▲ 37.4 (▲ 26.7)
関 東	▲ 34.2	▲ 38.2	▲ 36.7	▲ 33.5	▲ 35.4	▲ 34.0	▲ 25.5 (▲ 30.0)
東 海	▲ 32.2	▲ 37.3	▲ 34.0	▲ 33.1	▲ 35.3	▲ 40.6	▲ 30.9 (▲ 33.5)
近 畿	▲ 47.9	▲ 42.7	▲ 37.9	▲ 46.0	▲ 41.5	▲ 45.9	▲ 38.7 (▲ 36.4)
中 国	▲ 34.1	▲ 34.6	▲ 39.5	▲ 37.3	▲ 37.4	▲ 39.0	▲ 39.0 (▲ 35.5)
四 国	▲ 47.4	▲ 48.1	▲ 54.9	▲ 46.2	▲ 49.1	▲ 45.7	▲ 31.9 (▲ 23.0)
九 州	▲ 27.7	▲ 36.1	▲ 37.3	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 38.4	▲ 34.8 (▲ 23.6)

# 業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

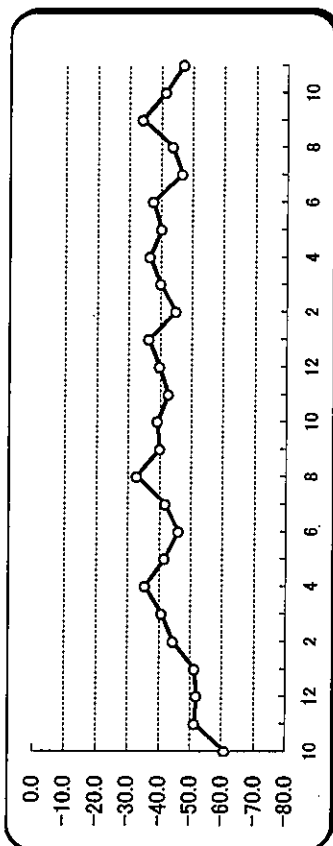
## 建設業



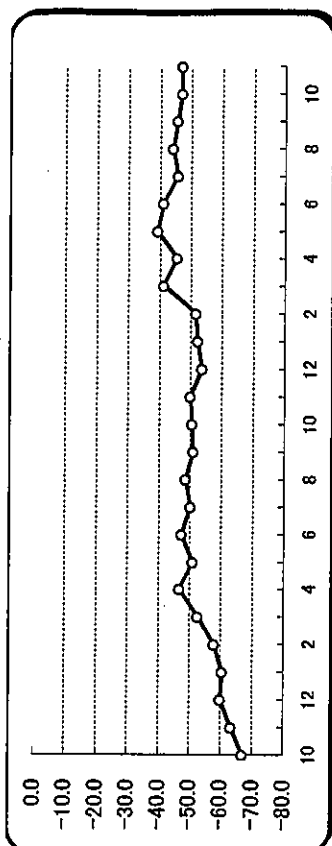
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

